

「らしさ」輝く附属小

第20号 令和7年10月10日(金) 校長 森内 秀学



いろんなことを、前向きに

いよいよ1年の後半戦、2学期がスタートしました。夏休みが明けて、これまでいろんなことがありました。子どもたちは、当然戸惑いはあったはずですが、大きく取り乱す様子もなく、2学期のスタートを切っています。これも、子ども自身の頑張り、それを支える保護者の皆様の御理解と御協力のおかげです。本当に、ありがとうございます。

加えて、もともとの授業や業務もありながら、何食わぬ顔で担任業務や授業の代替を引き受けたり、それをサポートしたりしている職員も立派です。手前味噌ですが、本校職員のチームワークの強さ、懐の深さ、力量の高さに、深く頭の下がる思いです。

そこで、ピンチをチャンスに変えようと、この際いろいろやってみることにしました。

① 朝の遊びを自由に

これまでは学級ごとにドッジボールをしていましたが、朝は自由に遊んでよいことにしました。安全管理として、担任の代わりに、教頭がまとめて面倒を見ています。また、教育学部の学生も、ボランティアとして週に2～3回、朝遊びの時間に来校してくれることになりました。子どもたちは、今までできなかったサッカーを楽しんだり、虫取りをしたり、教室で担任と語らったりと、楽しそうに過ごしています。

② 教科担任制を導入

教科の専門性を多くの子どもが享受できるようにすると同時に、教員の業務負担を軽減するため、可能な範囲で、教科担任制を導入することにしました。これは、例えば国語が専門の教員が、自学級だけでなく隣接学級の国語の授業も行い、代わりに、隣接学級の教員に、それぞれの専門教科の授業を行ってもらうという方法です。子どもは、①深い研究に根差した授業を受けられますし、②教師も、専門教科の授業のやり方を何度も試せます。また、③学級間の指導の統一も図りやすくなり、④多くの目で子どもたちを見ることで、トラブルも防ぎやすくなります。一石四鳥です。

③ 写真・動画は校務用タブレットで

子どもの写真を私物のカメラで撮影し、SNSにアップするといった事案が全国で起こっているのは御存じのとおりです。そこで、本校もそれを未然に防ごうと、シールを貼ったiPadを、校務用として全教員に貸与することにしました(右上)。iPadにしたのは、研究や講義に必要な写真や動画を撮ることが多い、本校ならではの実態をもとに、育友会本部と協議した結果です。本当にありがとうございます。なお、これは、SNSのアプリも含め、決められたもの以外は入れないようにしておりますし、学校でアカウントを管理しておりますので、撮った写真の確認や管理も学校でまとめてできるよう設定しています。御安心ください。



2学期からの新しい附属小の取組、どうぞよろしくお願いいたします。